

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」2014年度第4回公開セミナー報告

タイトル：アフリカにおける近代建築の普及

日時：2014年12月6日（土）16時～19時

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階セミナー室（301）

司会：目黒紀夫（AA研）

講演者：小倉暢之（琉球大学工学部環境建設工学科）

参加者：6名

内容：

今回のセミナーでは、アフリカにおける近代建築の普及について、旧イギリス植民地である東西アフリカの熱帯地域を事例に調査をされてきた琉球大学の小倉暢之氏を講演者として招いた。講演のなかでは、まず、近代建築の気候への適応という講演者の問題関心が説明されたうえで、西洋建築における近代建築がいかなるものかが説明された。つまり、それはギリシャ・ローマ以来の様式主義にたいして、装飾性よりも合理性や機能性、実用性を重視して設計された建築であり、思想的には1920年代に成熟を迎えた。そうした説明ののち、当時のイギリス植民地に建てられた近代建築を例として、熱帯の気候にどのように適応が図られたのかという点やそれを設計した建築家について説明がされた。また、近代建築をめぐる社会状況として、1930年代以前であれば近代建築はイギリスにあって異端であり、アフリカはそうした近代建築家が自由に設計・建築をおこなえる新天地であったという。しかし、そうした位置づけは、第2次大戦後のイギリスの復興計画が進められるなかで大きく変化し、進歩の象徴として植民地にも大々的に建てられるようになった。講演ののちには参加者とのあいだで質疑応答がおこなわれた。そこでは日本とは異なる西洋の建築観や近代建築をめぐる汎ヨーロッパ的な国際組織の役割、ヨーロッパ各国間での近代建築のちがい、また、アフリカにおける近代建築の具体的な建設方法や現在のアフリカにおける近代建築の扱い、アフリカ人建築家の可能性などが議論された。

※当報告の内容は著者の著作物です。 Copyrighted materials of the authors.